

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。河原の在来植物の駆逐、海浜の草原化による景観改変などの生態系への影響、砂の堆積促進が確認されています。工事現場の法面緑化などで広く使われてきました。緑化に用いないようにしましょう。特に自然性の高い地域では使用しないようにしましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	イネ科	
種名(亜種名)	シナダレスズメガヤ	
学名	<i>Eragrostis curvula</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	前頭(本土)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	南アフリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出、近隣地域などからの侵入	
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地	
全国の侵入分布	沖縄を含むほぼ全国	
生態学的特性		
生態	日当たりが良く、砂質土壌を好む。耐暑性と耐旱性は強いが、耐陰性と耐湿性は弱い。	
形態	高さ0.6～1.2mのイネ科の多年生草本。 葉身は長さ40～60cmで内側に巻き、先端は糸状に細まる。	
繁殖形態	花期は夏。 両性花、風媒花。果実は風、雨、動物、人間により伝播する。地下にある茎により繁殖する。	
生息環境	温帯～熱帯の牧草地、道ばた、法面、荒地、河川敷。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①河原の在来植物を駆逐。生態系に影響（海浜の草原化による景観改変）。砂の堆積促進。
県内で特に予想される被害	県内の河原の在来植物を駆逐。砂の堆積促進。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①河原の在来植物を駆逐。 ②栽培していたものの逸出。
シナダレスズメガヤを見つけたら	工事現場の法面緑化などで広く使われてきました。緑化に用いないようにしましょう。特に自然性の高い地域では使用しないようにしましょう。
見分け方	シナダレスズメガヤは、高さ0.6～1.2mのイネ科の多年草で、葉身は長さ40～60cmで垂れ下がっている。ススキは、高さ1.0m～2.0mのイネ科の多年草であるが、夏から秋にかけて、長さ20から30cm程度の十数本に分かれた総をつける。
見かけやすい場所・時間	牧草地、道端、荒地、河川敷。
防除方法	刈り取りや抜き取りによる防除。
防除の取組事例	平成14年から東京大学保全生態学研究室、市民団体「うじいえ自然に親しむ会」、下館河川事務所が協働による、鬼怒川中流での駆除が続けられている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80760.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 国土交通省河川環境課(2013)河川における外来植物対策の手引きp142-148、p180-183.